



ウズラはふわふわで気持ちいい

年少

すみれ組



園庭のメタセコイアの木が気持ちのよい木陰を作っています。4月に入園した年少の子どもたちは幼稚園の生活にだんだん慣れて、「外に行ってみよう！」と広い園庭へ元気よく出かけていくようになってきました。

園庭には色々な環境がありますが、中でも飼育小屋は子どもたちに人気の場所の一つです。ある日、朝から元気の無かったTちゃんに「ウズラちゃん、見に行ってみる？」と話しかけ、一緒に飼育小屋まで行ってみました。

すると、一羽のウズラが金網のすぐ近くにぴよんと飛び乗って私たちを出迎えてくれました。ピョロロロッと可愛い声で鳴いて羽を細かく震わせたウズラを見て、「鳴いた！」と表情を緩ませたTちゃん。「これ食べるかな」とすぐそばに生えている草をちぎってウズラの口元へ。「ん～食べないなあ」「こっちの葉っぱはどう？」などとやっている時、すみれ組の友だちが一人、二人と寄ってきました。「わたしもやりたい」と、築山に咲いている花を摘んできて一生懸命口元へ持っていきますが、やっぱり食べません。「なんだったら食べるのかなあ」と数人であれこれ試しているうちに、Tちゃんはすっかり元気になっていました。



そんなことを何日か続けていると、子どもたちは今度はウズラに触りたくなってきました。でも少し怖いので、初めは金網越しに枝でツツツとつつく子もいます。「棒でつつくと痛いから、こうやって触ってあげよう」と保



育者が金網の隙間から指を入れて優しく撫でてみせました。「うわ～ふわふわで柔らかいよ～！」その様子を見て、「触りたい！」「どいてどいて！！」とウズラを巡っての押し合い合戦が始まりました。なかなか近くに来てくれなくて、「恥ずかしいのかも…」「怒ってるのかな」とウズラに思いを馳せながらやっとの思いで触れると、「いっぱい触れた！気持ちいい！」と満足気な顔で、「もう一回」と挑戦する子どもたちでした。

心動かされる出来事を前に、子どもたちの目がキラッと光る瞬間があります。これから子どもたちと一緒にそんな体験をたくさんしていきたいと思います。（教諭・松尾桃子）



ウズラの飼育について

白梅幼稚園では、長年、小動物の飼育に取り組んでいます。生き物の世話を当番として位置づけ、命あるものがその命を長らえるには子ども自身の存在と世話が欠かせないことを経験しています。

現在のウズラは昨年の年長児を中心に、いただいた卵を孵卵器で孵化させるところから飼育が始まりました。途中で逃げたり亡くなったりして、現在は3羽となりました。子どもたちは扱いに慣れてきて、抱き方も上手になりました。夏休みはにじ組の子どもたちがお世話をします。



大切にしているもの

年長 たか1組

年長に進級しました。「青バッヂになったから」と、はりきって身支度を済ませる姿もある一方で、不安で表情が硬い子もいます。4月は、期待と不安が入り混じる時期です。

ある日、園庭の先生が神妙な顔をして「先生……」とクラスにやってきました。話を聞くと、3人の女の子たちが、自宅から持ってきた遊具を見せ合っていた、とのことでした。3人には、大事なものを落としたら困るから幼稚園には持って来ないように伝えました。

園に持ってくるのは禁止にはなっていますが、ちょっと違う見方をすると、私物（おもちゃ）というのは、自分が所有していて「大切にしているもの」とも言えます。



その「大切にしているもの」を、友だちに見せるということは、「友だちだよ」と繋がりを確認しているとも言えます。「大切にしているもの」は、「物」だけではないような気がします。

ままごとで使うお城を、段ボールで作っている時のことです。「あ、これお化け屋敷にしない？」とAちゃんが言うと、「怖いからヤダ」とBちゃんに断られ、険悪な様子になったことがありました。その後、ちょっと考えたCちゃんが「離れた場所だったらどう？」と提案を変えてくれたことで、「それならいいよ」とBちゃんも同意してくれました。

彼女たちにとっての「大切にしているもの」は、「自分の想い」です。「この子なら私の意見を聞いてくれる」「『やだ』と言っても受け入れてくれるだろう」という、そんな関係性を確認するかのように、「自分の想い」を言葉に託しているようです。

1学期は不安を感じる時期です。試したり、関わったりしながら、「安心」を広げていくこともこの時期です。今までと違うのは、その隣にいるのは必ずしも保育者ではなく、友だちということもあります。友だちの存在がどんどん大きくなっていきます。（教諭・西井宏之）

文部科学省研究開発学校に指定されました

2023年度から4年間、小平市立小平第一小学校と共に、文部科学省研究開発学校に指定されました。研究開発学校では、国の教育課程の基準の改善に向けて、新しい教育課程や指導方法等について研究開発を行います。

研究課題は「幼小移行期において生活の発見と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育み、「探究」を自律的に深化させる、幼小一体的な教育課程の研究開発」です。

現在、日本では幼稚園と小学校は別々のカリキュラムを実施しており、幼児教育での学びが小学校教育にうまく接続されないという問題があります。そこで、小学校の生活科を改変して、幼小間で共通のカリキュラムを開発し、実施することは可能か、全国に先駆けて取り組むものです。

具体的には幼小共通に「生活ひろば」という活動（小学校は教科）を導入します。「生活ひろば」は「生活発見」「生活探究」「生活交流」の各領域から構成されます。本園としてはこれまで取り組んできた探究と協働を中心とする保育を「生活ひろば」として見直し、取りまとめていきます。例えば、年中組では大豆を育てて収穫し、来年度、味噌か醤油に加工するための取組が始まっています。子どもたちの経験の充実に向けて、各ご家庭には引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

